

白ロシアに愛の医療器材

今年二月から、血友病患者に悩むソ連・白ロシア共和国に医療器材を贈る募金運動を展開している日本ユニセフ協会秋田友の会(佐々木正光会長)は、五月上旬、四人の代表が現地を訪ね、これまでの募金で準備した注射器や注射針、輸血セット、手術用手袋など約三万点を贈った。同友の会では、今後も活動を続け、さらに善意の輪を広げていくこととしている。

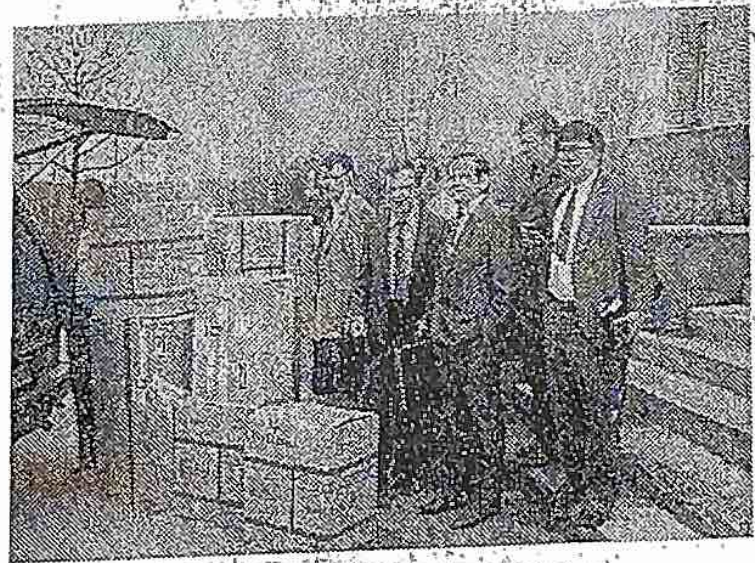
日本ユニセフ協会 秋田友の会の会

同友の会によりますと、同共和国には現在、三百七十五人の血友病患者がおり、そのうち十五歳以下の子供が六十九人と一割近くを占めている。さらにチェルノブイリ原発事故の被ばく者も多く、社会問題となっていて、医療機器が不足している。満足な治療が出来ない状況だといつ。

佐々木会長の友人で、東

血友病の子供ら救って

募金で準備、注射器など3万点



白ロシア血液・輸血研究所で
救援の医療器材を手渡す代表

医療施設などを視察して帰った。佐々木会長は「器材の不足で、治療がままならない医療現場の悩みや、病状が悪化していく子供たちの現状は想像以上のものだった」と語り、募金運動は、県内だけでなく県外の各種団体へも呼び掛けながら、さらに輪を広げていく。

七月には、ソ連邦との貿易交流を目指す秋田の異業種交流グループのメンバー十二人が、経済視察代表団として同共和国を訪問する計画もあるなど、運動へのバックアップ体制も進んでいる。

を求めて帰った。科学研究所へ救援の医療器材を届けた後、五日間滞在した代表四人は、血液・輸血在、現地関係者の案内で医

・26226へ

善意の輪、さらに広く